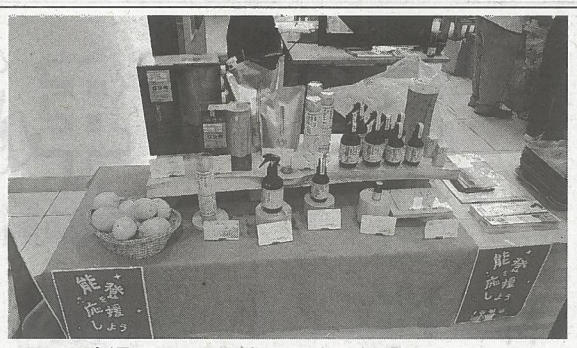
能登ヒバの効能生かし商品開発

「もえんげん」も全国で活躍

加賀木材

加賀木材（石川県金沢市、増江世圭社長）は、木材の付加価値を高める商品開発に力を入れている。

同社では、能登ヒバを活用した商品を「NOTOHIBAKARA」として ブランド化。なかでも、アロマオイルやエッセンシャルウォーターは多方面から高い評価を受けている。能登ヒバの端材や枝打ちした葉を原料に、石川県の志賀町にある自社工場「のと里山工場」で精製している。天然成分100％で、除菌や除ウイルス、消臭、リラックスといった効果がある。



金沢駅でイベント展示された「NOTO HIBAKARA」ブランド製品

安定して高品質な製品を供給し続けられるよう、工場内に成分分析機を設置。製品にヒノキチオールなどの有効成分がしっかり含まれているか検査している。効能や香りを安定化させるため、枝葉から抽出したものと端材から抽出したものを独自の配合で組み合わせている。

これらの商品は、通販で販売しているほか、県内の温浴施設やホテルでも活用されている。

増江社長は「能登ヒバの香りは人を魅了する香りだ」と話す。その香りと効能を直接感じてもらえるよう、能登ヒバを使ったサウナの展開を準備している。サウナ本体を能登ヒバで作り、能登ヒバのロウリュウ水も開発している。既に試験機が完成しており、今秋ごろから体験してもらう予定だ。体感した人の意見を取り入れながら開発を進め、将来的には、高級ホテルや温浴施設などでの導入を目指していく。

もう一つの高付加価値商品が不燃木材「もえんげん」だ。リン酸を使っていないため、白華が極めて少ないことが高く評価されている。こちらも、自社でコーンカロリーメーター試験を実施し、性能をしっかりと確認している。石川県産材を中心に周辺地域産材のもえんげんを製造したことがあり、内外の大型施設で多数採用されている。県内での最近の採用事例は、金沢駅前で9月に開業する北國銀行のテナントオフィスビル「ヒロオカテラス」。もえんげん処理を施した石川県産杉を、MEC Industryが展開しているMIデッキにして使用している。

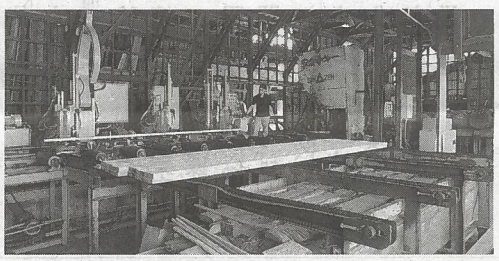
加賀木材の木材利用の象徴的な存在となっているのが、金沢市内にある「ノトヒバカラベーカリー」「ウッドスタイルカフェ」だ。10年ほど前に、同社の資材置き場だった土地にカフェを開設し、その後ベーカリーを立ち上げた。これらの内装や、子ども用遊戯スペースのおもちゃにも能登ヒバをふんだんに使用。能登ヒバなどの木材をより身近に感じられる空間となっている。

内外産材100種以上を在庫

木田源製材

木田源製材（石川県能美市、木田源一社長）は、注文材専門の製材工場だ。造作材から神社仏閣用材、ラミナ、土木用材まで幅広く対応している。樹種も国産材から輸入材まで常時20～30種類、品目やサイズ違いも含めると常時100種類以上を在庫している。

年間原木消費量は約9600立方㍍で、国産材と輸入材が半々。国産材は杉・桧、国産松、能登ヒバ、広葉樹。輸入材は米松や米ツガなど幅広く、米ヒバやスプルースのフリッチも取り扱っている。


木田源製材の製材工場

主に石川県や福井県を商圏としており、国産材丸太も両県の森林組合の共販所を中心に集材している。販売先は同業他社の製材工場やプレカット、問屋などが中心だ。品目は造作材やラミナが多い。

また、細かいサイズ違いにも対応でき、各種樹種の特性も熟知していることから、神社仏閣のような伝統建築から最近の木造建築まで、造作材の応用で幅広く携わっている。

さまざまな資材を取り扱っているため、例えば側取りで造作材やラミナを製材し、芯材に近い部分や欠点が出た部分は土木用材に使うことができる。これにより歩留まりを向上することが可能だ。

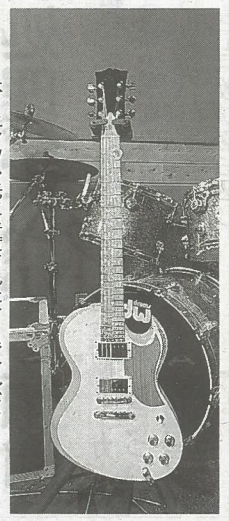
木材の高付加価値化目指す

能登ヒバ・広葉樹など県産材も活用

フルタニランバー

フルタニランバー（石川県金沢市、古谷隆明社長）は、針・広葉樹問わず国内外のさまざまな樹種を取り扱っている。こうした事業を通じて、県産材でも木の付加価値を高められるような企画を打ち出している。

象徴的なのが「ATENOTE（アテノオト）」だ。出材量が少ない能登ヒバを付加価値の高い楽器用材として活用することで、能登地域の山への還元などを目指している。ピアノやギターのような洋楽器から三味線のような和楽器まで、楽器メーカーなどと連携してさまざまな商品を開発している。ミュージシャンと連携したプロジェクトも相次いでおり、昨年はロックバンド・ストレイテナーのボーカル・ホリエアツシ氏のオリジナルギターを制作した。


ホリエアツシ氏に手渡されたオリジナルギター

また、同社では能登ヒバを使ったホテル用の内装材やベッド、いすといった什器などの開発も進めている。石川県を訪れた観光客に能登ヒバの良さを体感してもらうことで、県外での利用拡大につなげることを目指している。

能登ヒバ以外でも、加賀森林組合が3月に設立した広葉樹活用に関するコンソーシアムに参画。家具メーカーと連携しながら、広葉樹利用の道筋作りを進めている。また、能登半島地震で被害を受けた古民家から出た古材を活用する取り組みも始まっている。最近では、能登と同じように地震や大雨の被害に見舞われた熊本県ののは農研塾などと連携し、両県の古材活用を進めるプロジェクトが立ち上がった。

同社は木材利用にかかわるさまざまなサービスを展開しており、こうした仕組みが県産材利用や能登半島地震からの復旧・復興にも生かされている。例えば、木製ノベルティー事業「KiLTY（キルティ）」では、アテノオトでつながりができた有名アーティストから能登ヒバを使ったグッズの注文が来るなど、新たな木材利用の手法として広がりを見せている。また、木材関連の仕事マッチングサービス「フルステ」は、震災復興のために県外から来た業者が仕入れ先や職人を確保する目的で活用されており、工事を迅速に進めるうえで重要な役割を果たしている。

かが杉のログハウス

北陸リビング社

北陸リビング社（石川県能美市、北出秀樹社長）は、加賀地域産の「かが杉」を使ったログハウスを手掛ける住宅メーカーだ。能登半島地震の復興住宅でも活用する動きが出ている。

もともとはほかのログハウスと同様、輸入材を主体にしていたが、欧州から輸入した場合、納期が見えづらく、ずれ込むと降雪期に重なってしまう。また、国産材であれば為替変動の影響を受けにくい。こうした工期や価格面でのメリットから国産材、それも近隣から出材される杉の活用に乗り出した。同社は石川県小松市にある工場で加賀森林組合から仕入れた丸太を加工。半年ほど乾燥させたものを部材として使用している。丸太から加工した方が、歩留まり良く活用することができる。断熱材としてシール材を入れて出荷し、ログハウスを建てている。

北陸リビング社のログハウス

能登半島地震後には、ログハウスで将来的に公営住宅として活用する仕様の仮設住宅を150棟ほど手掛けた。仮設住宅でログハウスに住んだ人たちから「冬場でも暖かい」と高評価を受けたことや、震災前に奥能登で建てたログハウスがすべて無事だったことから、復興住宅でログハウスを希望する声も上がっている。

（29日付につづく）

フルタニランバー株式会社
石川県金沢市湊1丁目86番地　TEL 076-238-5633 FAX 076-238-5635
■事業内容　木材輸入販売（卸売・小売）、木材加工
■取 扱 品　無垢板材（家具材・建具材・建築材）
集成材、フローリング、ランバーコア、芯材、丸太
■取扱樹種　タモ、ナラ、ウォルナット、チーク、スギ、ヒノキ、能登ヒバ等
国内外の広葉樹・針葉樹各種
woodbe 高速木材乾燥技術　treeflow 木材業務システム　ATENOTE 能登ヒバ楽器プロジェクト　CrossWood 木とコラボ
KiLTY 木製ノベルティ　フルステ 木材・職人マッチング　北陸の地域材連携　林業復興支援

能登ヒバといえば、KAGAMOKU GROUP
石川県の貴重な林産資源である
「能登ヒバ」を活用、付加価値の高い製品を作り
石川の山と地域全体を豊かにして参ります。
公式HP
SOCIAL PRODUCTS AWARD 2025
環境大臣特別賞
加賀木材株式会社　［本　社］石川県金沢市湊2丁目21番地　Tel.(076)238-4131［東京営業所］Tel.(03)6809-5441［大阪営業所］Tel.(06)6484-5235